

〈紹介〉

保科恵 (本学東洋学研究所研究員) 編

『堤中納言物語文献集成』

本書は、平成八年九月末日までの『堤中納言物語』に関する文献が蒐集されている。

書籍の場合は、編著者名、書名、内容、叢書名、判型、製本形態、総頁数、発行年月日、発行所、目次が記されている(ただし、注釈・本文・口訳・索引については、目次は省略されている)。一例を示す。

◇保科恵著『堤中納言物語の形成』新典社研究叢書九六、A5
判上製本、三五〇頁、平成八年五月二四日発行、新典社「目次」序説 文学表現の形成方法「第一部 表現形象の座標規定」第一章 女性掠奪の表現方法 *平成四年三月二五日 *平成五年一〇日一〇日「第二章 標題設定の表現方法」、「第二部 表現構成と素材形象」第一章 類似素材の構成論理」(以下略)(引用者注 *は初出年月日)

雑誌掲載文献では、執筆者名、論文名、内容、編著者名、書名、叢書名、判型、製本形態、総頁数、該当頁数、発行年月日、発行所名が記されている。一例を示す。

◎塚原鉄雄「物語の系譜―伊勢……夕顔……花桜折る少将―」(表現史)、『藝林』第一卷第四号、隔月刊、A5判並製本、六

二頁(五七頁〜六二頁)、昭和二五年一〇月一日発行、藝林会
↓塚原鉄雄著『王朝の文学と方法』、「物語文学の素材人物」
A5判上製本、四〇二頁(八一頁〜一一四頁)、昭和四六年一月一日発行、風間書房

収録された文献は、影印複製・注釈・口語訳・索引・論文などといった研究文献にとどまらず、渋澤龍彦「幻妖のコスモロジー」、桑原茂夫『COLLECTION少女凶鑑』などといった評論、随筆に及ぶ(ただし、児童書・漫画・作品翻案の小説、戯曲などは除く)。再録、復刊なども漏らさず蒐集され、その旨注記される。文献の配列は、発行年月日の順である。

巻末には、「内容別索引(注釈・本文・口訳・索引)」「人名別索引」「書名・論文名別索引」が付されている。

『堤中納言物語』の研究文献を文字どおり網羅した本書は、『堤中納言物語』のみならず王朝文学研究の裨益たること、贅言を要さないだろう。

保科恵氏は、平成八年三月、本学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士(文学)。専攻は、表現論、王朝文学。現在、本学東洋学研究所研究員兼本学大学院非常勤助手。著書に『堤中納言物語の形成』(平成八年、新典社)がある。

なお、本書は、新典社の新叢書である作品別研究文献の首貫をなす。以後、本書同様充実した研究文献集成が続くようであり、期待される。

(新典社。作品別研究文献1、平成九年二月一八日発行)

小池博明